

前期始業式式辞（通信制課程）

○ただ今、黙とうをしていただきましたが、3月末に県内高校の登山訓練において、大変痛ましい事故が起きてしまいました。亡くなられた8名の方々のご冥福を祈ります。

本校では、生徒の安全・安心の確保を重点事項として掲げています。学校が十分に配慮して教育活動を行うことは当然ですが、広い意味で安全・安心ということを考えるとき、生徒の皆さんの協力も不可欠です。例えば、いじめや暴力行為をしない、見逃さない。校内で過ごすマナーを守る。先生の指示に従って授業をきちんと受ける、などです。学校全体として、引き続き注意を払っていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○さて、新学期が始まり4月初めに先生方と、今年度は「自立のステージ」と称して、皆さんの自立に向かう能力を高めていくことを意識して教育活動を展開していくことを確認しました。生徒指標の自分で立つと書く自立です。

○自立とは、経済的にも精神的にも、もう一つ加えれば、生活面でも独り立ちすることを言います。簡単に言えば、自分のお金で暮らし、炊事洗濯も自分でできて、何かあっても自分の判断で対処できる、そういう状態です。でも大人でも、三拍子そろっている人はそんなにいないかもしれません。

自分でできないとき、私たちは普通、人に頼るということをします。お金を親に出してもらい、奥さんにご飯を作ってもらいなどです。人に頼って生きられるということも立派な能力だと思ひます。でも、いつか頼れなくなるときがくるであろうことに備えて力をつけておくことも大切です。自立は究極の目的ではありませんが、幸福に生きるために大切な性質、状態なので、本校でも生徒指標の一つにしています。

○しかし、いきなり独り立ちというのは難しいことです。そこで、大事なものは、まずは、自分で律すると書く自律から始めることです。自律ということ、決まりを守るというイメージを持つ人もいると思ひます。自分の中にやって良いことと、ダメなことの線を引き、その線を越えないようにすることです。これも大切ですが、私は、それも含めてもう少し広い意味で自律を捉えてほしいと思ひています。

○それは、他律の対義語としての自律です。

他律は、他人の意思・命令などにより行動することです。対して、自律は、自分の意思で決めたことをやること。

ですから、まず大事なものは、自分で選ぶこと、自分で決めること（自己選択・自己決定）、次に大事なものは、それをやり切ることです。

○これを、まず皆さんの生活の場である学校で、ぜひ実践してください。自分で勉強する科目は自分で決めましたね、これから科目ごとにスクーリングにいつでるのか自分で計画を立てましょう。レポートを出されたらいつ提出するか、どのレベルまで仕上げるのか。行事は何に参加するか。部活動をやるならどのレベルを目指すのか、人間関係を築くためにコミュニケーションスキルをどの程度身につけたいのか、本校を出た後はどうしたいのか。先生や家族のアドバイスも大切にしたいですが、最後は自分で決めてください。そして、できれば、はっきりした理由をもって、それを言葉にして決めることです。

自分で決めたら、次は、やり切ることです。やり切るには、自己管理が必要になります。そのためには、先ほど言ったように、一線を引いてこれを越えないようにする心も必要だと思います。自分で決めた理由（絶対に看護師になるなど）、これもくじけそうになる時には支えになるはずです。

○ところで、野球のイチロー選手の高校時代の恩師、中村監督は「やらされている百発より、やる気の一発」という言葉を、監督をしていた31年間、部員に口酸っぱく言っていたといいます。それは、私が言っている自分やることは自分で決めるということと同じだと思うのですが、それを誰よりも、実践していたのがイチローだったそうです。

普段の練習では特別他の選手に比べて熱心に打ち込んでいるという印象はなく、しかし活躍するイチローを見て、監督はこれが天性のセンスというものかという目で見ているそうです。ある時グラウンドに幽霊が出るといううわさが広まり、監督が夜中に見に行ったら、暗がりイチローが黙々と素振をしていたそうです。彼は、人にやらされることを好まず、自らが求めて行動する、という意識が抜群に強かったといいます。

プロになってからイチローという名で活躍するのは3年目からですが、スイングを変えるか、二軍に行くか選べと言われて、二軍に落ちることを選んだというエピソードもあったそうです。

イチロー選手は徹底的にやるべきことをやっている結果として、優れた成績を残しているというイメージが強いのですが、それはもとを辿れば自分がどうしたいかは自分で決めるという強い意志がもたらしたのではないかと思えます。

○今日話したことは、簡単に言えば、「自分で決めて、やってみる」ということです。

その機会は常にあります。例えば、この後、ホームルームなどで、クラス委員を決めるような場面があるかもしれません。先生が「だれかやってくれる人いるかな」というときに、ちょっとでも「やってみようかな」と心の中に小さな火を灯す人がきっと何人かはいるはずです。でも多くの方は、やっぱりやめようとせっかくついた火に水をかけてしまう。

心についた火を、「よし、やってみよう」と大きくするのか、「どうせ、無理だ」と消してしまうのかは、他人には見えない選択です。でも、今年は、「よし」の方に一歩踏み出してみませんか。仮に踏み出してよろけたとしても、ここは学校です。先生方がそっと支えてくれると思います。

○通信制に来ている皆さんが、本校で目指すところは人それぞれだと思います。しかし、皆さん一人ひとりが「自立のステージ」に立ってチャレンジする充実した1年を過ごせるよう期待して、新学期の式辞といたします。